

■自動車産業

第1回

トヨタ自動車(株)
常務役員
まき ゆうじ
榎 祐治 氏



【ものづくりの将来方向】

- 自動車産業では情報化、電動化、知能化が進展しクルマの価値が二極化。
- シェアリングエコノミーにより、クルマの価値が所有から利用へ変化する可能性。
- モノの価値が減少し、プラットフォームを手がけるIT企業やメガサプライヤーの要素技術の役割拡大。
- ソフトウェア、素材、ハードウェアの開発と同時に進められる、実装実証が重要。
- ものづくり企業は同業・異業種との協調が必要であるが、摺り合わせ等自前主義が懸念。
- 情報化、電動化、知能化の中で人材のミスマッチが発生。

【地域づくりの視点】

- クリエイティブな開発拠点を中部で展開するには、生活しやすさを備え、マーケットを創出する等産官学による魅力的な地域づくりが必要。

■ヘルスケア産業

第1回

(株)東海メディカルプロダクツ
会長
ついで のぶまさ
筒井 宣政 氏



【ものづくりの将来方向】

- 国内だけでは安定供給が難しいため、グローバルに展開。
- 医療機器の輸入依存度が高く、安全保障上の問題への対応が必要。
- 10年、15年先の新たな医療機器開発に取り組むなど、産官学が連携。

【地域づくりの視点】

- 中部は日本の中心であり、物流や人の移動を活発化するように、会議場や展示場、研究施設などの整備が必要。
- ヘルスケア産業発展には研究開発を支援するような施設やトレーニングセンターの整備が必要。

■航空宇宙産業

第1回

三菱航空機(株)
執行役員
ふたつてら なおき
二ツ寺 直樹 氏



【ものづくりの将来方向】

- 完成機を手がけることで国内企業の新規参入を促し、現段階では中部圏への開発機能の集積、量産拡大に伴うサプライチェーンマネジメントの高度化・維持・拡大。
- 航空宇宙産業の振興には技術開発やパイロット、メカニック等の人材育成必要。
- 航空機産業の裾野拡大には各地の航空機産業クラスターや新規参入メーカーとの連携・交流拡大や海外メーカーとの共同開発など、中部域外との交流連携が加速化。

【地域づくりの視点】

- グローバルエンジニア集積のためインターナショナルスクールなど外国人高度人材向けの生活環境整備が必要。

■農産業

第2回

豊明花き(株)
代表取締役社長
ふくなが てつや
福永 哲也 氏



【ものづくりの将来方向】

- 現在、生産者の高齢化、後継者不足が懸念。
- ドライバー不足、労働条件の厳格化等への対応が課題。
- セントレアを拠点とし、日本産花き輸出における「人・物・情報」のハブ化を実現するために、輸出事業者、行政などの連携が要。
- 物量が増える時期のトラック不足に対応した一般トラックを活用した輸送方法の再構築が必要

【地域づくりの視点】

- 全国の卸売市場が連携し、共同配送による物流量の確保や中継輸送など集荷配送拠点の構築が必要。

■物流産業

第2回

ヤマト運輸(株)
中部ゲートウェイ長
せきね としはる
関根 利治 氏



【ものづくりの将来方向】

- 物流のボーダレス化(グローバル化)、eコマースの拡大・加速、労働力人口への対応が課題。
- 宅急便の進化には自動運転集配や宅配ロッカーの取組必要。
- 自動車運転免許規制緩和、高速道路の速度規制緩和、フルトレーラーが使用出来る環境整備、高速道路における隊列走行の実現、モーダルシフト・エアの活用等が必要。

【地域づくりの視点】

- 愛知県は東京・大阪の中心に位置し、緊急時の代替輸送機能、北信越・北陸との連携、BCP機能の観点から、中部ゲートウェイを設置した拠点性の高い地域のため、トラック輸送の拠点として非常に重要である。

■航空宇宙産業
多摩川精機(株)
取締役副会長
はぎもと のりふみ
萩本 範文 氏



【ものづくりの将来方向】

- ものづくりはニーズの溢れる時代からニーズを見つけて具現化して提供する時代
に変わっており、マーケットに眠っている潜在ニーズを見つけ出す力が必要となった。
- 基礎技術と未来技術を結びつける力が必要であり、その“しくみ創り”が求められて いる。
- 「知の循環」が起ってくれば、はじめて「産業の核」が生まれると考え、信州大学サテラ
イトキャンパスと長野県の工業試験場などを誘致した。
- 名古屋の“理科力”を地域の技術にするという発想を生み出す企画力が必要。技術とデザ
インをセットにした産業振興が必要。

【地域づくりの視点】

- リニア長野県駅が出来る飯田市は、コンパクトな耕地面積を利用した先端科学を想像し、
創造する“まちづくり”が必要。
- 企業は人の繋がりで存在しており、由縁を大事にする必要がある。

第3回

■環境産業
(株)デンソー
安全衛生環境部長
たなはし あきら
棚橋 昭 氏



【ものづくりの将来方向】

- CO2の排出量について、部品工業界で標準化して、部品が一生でどれくらい
削減出来るか指標化し、環境価値創造を見える化した。
- 昔の工場のラインは大きかったが、今はスリム・コンパクトにして省エネ化している。
- エネルギー使用供給についても、ジャストインタイムの考えを導入している。
- IoTの活用については、現場を知らなければうまくいかないため、社内教育が重要。

【地域づくりの視点】

- IT人材の確保の観点から、東京支社や品川研究所を拡大し、他社との提携等を進めてい
る。
- 地域の皆さんと植樹やCO2削減に関する活動を実施している。
- グローバルな視点で人材の確保が必要であり、名古屋の利便性をPRしながら愛知県内に
住んでもらい、働いてもらえるようになるとよい。

第3回

■IT企業
(株)エイチーム
取締役
まきの たかひろ
牧野 隆広 氏



【地域づくりの視点】

- 顧客とのコミュニケーションのための移動コストは、東京本社の会社と比べると名古屋は
割高。
- 知的好奇心を満たし、刺激する勉強会やイベントが必要。
- ITリテラシーの高い若者が集うため、最先端等の実験をする場所が必要。
- 名古屋の公共交通機関の待ち時間を短縮させることが必要。
- 世界との競争力の維持の観点から、ホワイトカラーが柔軟に働ける環境確保が必要。
- 東京からのアクセスを考慮し、産業も大学も名古屋駅前に大きな拠点が必要。
- 学生や若手社員が中部で就学・就労するメリットがある環境整備が必要。
- 若者が憧れる企業が中部圏に大型拠点を構えることが必要。

第4回

■製造業(働き方)
ブラザー工業(株)
チーム・マネージャー
あおき かつひこ
青木 勝彦 氏



【地域づくりの視点】

- 業務効率化の推進のため、業務廃止、工数低減、典型的な事務作業のロボット化を検討。
- 働きやすい職場環境にするため、フレックスタイム制度を導入。
- 女性の遠方通勤者や中途採用者のために、テレビ会議システムやメールを使用したサテ
ライトオフィスを検討。
- 女性活躍の観点から、女性活躍推進プロジェクトを立ち上げ、長時間、夜型労働の職場
環境の見直し。
- 育児や介護と両立しやすい在宅勤務制度の整備が必要。男性職員の育児休暇取得への
理解が浸透。
- 外国人から名古屋は暮らしやすいと評価されており、外国人の人材活用も検討視野。

第4回

■海外事業者団体
在日米商工会議所
中部支部理事
マイケル ウィーニック
Michel Weenick氏



【地域づくりの視点】

- 質の高い地元の労働力確保が容易であり、質の高い人材(労働力)を生み出す質の高い
学校教育、生活環境等のサイクルが必要。(語学の充実)
- 家族で生活できて子供を育てやすい環境や生活の質が充実が必要(生活費、自然環境、
インターナショナルスクール等)
- ベンチャー企業を支えるコミュニティや地域の支援が必要。
- 空港・港湾が、都心部から30分程度で結ばれる物流ネットワークが必要。
- 女性や外国人の雇用拡大が必要であり、企業が率先して女性の地位向上、ポスト増や育
児サポート等を充実させることが重要。
- 都市の魅力が想像できるランドマーク、世界に対してのプロモーションが重要。
- ワークライフバランスや安全・安心な生活環境であることも重要。

第5回